

首都大学東京 学士課程教育

「卒業の認定に関する方針」及び「教育課程の編成及び実施に関する方針」

プログラムの名称: 人文社会学部 人文学科

.1.卒業の認定に関する方針 (ディプロマ・ポリシー:DP)

..(1)取得できる学位

〈哲学 (哲学・西洋古典学) 教室、表象文化論教室、日本文化論教室、中国文化論教室、英語圏文化論教室、ドイツ語圏文化論教室、フランス語圏文化論教室〉

学士 (文学)

〈歴史学・考古学教室〉

学士 (史学)

..(2)取得できる資格

定められた教職及び教科に関する科目の単位修得ならびに卒業を要件として、社会、公民、地理歴史、国語、中国語、英語について中学校教諭一種免許状・高等学校教諭一種免許状を取得することが可能です。また学芸員、社会教育主事の資格についても定められた科目と単位の修得と卒業を条件に取得することもできます (なお、本学在学生在が教職の資格を取得しようとする場合には、必ず入学年度発行の「教職課程の履修概要」を熟読参照してください)。

〈哲学 (哲学・西洋古典学) 教室〉

中学校教諭一種免許状 (社会)・高等学校教諭一種免許状 (公民)

〈歴史学・考古学教室〉

中学校教諭一種免許状 (社会)・高等学校教諭一種免許状 (公民、地理歴史)

〈表象文化論教室〉

中学校教諭一種免許状 (社会)・高等学校教諭一種免許状 (公民)

〈日本文化論教室〉

中学校教諭一種免許状 (国語)・高等学校教諭一種免許状 (国語)

〈中国文化論教室〉

中学校教諭一種免許状 (中国語)・高等学校教諭一種免許状 (中国語)

〈英語圏文化論教室〉

中学校教諭一種免許状 (英語)・高等学校教諭一種免許状 (英語)

..(3)育成する人材像

人文学科では、異なる時代や文化そして状況に置かれた他者への深い理解力と想像力を涵養することで、自分自身および自らの文化と社会とをより客観的に把握し、近視眼的発想を乗り越えて大局的判断を下せる学生を育成します。東京都立大学人文学部時代から60有余年の歴史があり、卒業生は内外各地で活躍しています。卒業後には、情報、放送、出版、文化、教育、金融、流通などの民間企業、NPO、NGOなどの団体、国、都道府

県、市町村などの公務員、中学高校の教員など、多様多彩な進路が開かれています。

..(4)プログラムの特色

自らの文化と異文化を学ぶことは、多様化する国際社会の中で生きる上で、互いの理解を深める重要な役割を果たすこととなります。人文学科では、人文学の基礎となる哲学、歴史、文学、文化、芸術の視点から8つの教室を設け、国際的な知識を深めるとともに、それぞれの専門分野での学問的探求を行っています。以下、教室ごとに特色を紹介します。

〈哲学（哲学・西洋古典学）教室〉

哲学教室は、「哲学」と「西洋古典学」という二つの専門領域から成り立っていて、哲学教室に進む学生はこのどちらかを選択し、深く学びます。

専門領域・哲学では、古代ギリシャから現代までの、存在論、認識論、倫理学、論理哲学、言語哲学等の主要な哲学思想が扱われ、主な哲学者としてはプラトン、アリストテレス、デカルト、マールブランシュ、スピノザ、ヒューム、カント、ラッセル、ウィトゲンシュタイン等が最近の授業では扱われています。授業は、基礎知識を学ぶ「講義」、哲学書の読解と解釈の仕方を学ぶ「演習」、自らのアイデアを発表・検討する「哲学討論」に分かれ、最終年次には、四年間学び、考えたことをまとめる「卒業論文」の執筆があります。

専門領域・西洋古典学を選択する学生は、古代ギリシア語・ラテン語を初歩から中級レベルまで学び、「西洋文学」の原型とも言えるギリシャ悲劇や古代ローマ時代の詩・劇作など、これらの言語で書かれた作品の読解と解釈の仕方を学びます。最終年次には、四年間学び、考えたことをまとめる「卒業論文」の執筆があります。

〈歴史学・考古学教室〉

歴史学と考古学は、いずれも過去の社会に生きた人々の暮らしを明らかにする学問です。両者の違いは、歴史学が主として文字史料に基づいて研究を進めるのに対して、考古学が扱うのは遺物や遺跡などの物的資料であるという点です。そこで歴史学・考古学分野では、まず必修科目である歴史学概論と歴史学方法論の授業を通して、歴史認識をめぐる諸問題に関する理解を深めてもらいます。その後、一人ひとりの興味・関心にしたがって、講義や演習・実習を通じて日本史・アジア史・ヨーロッパ史・考古学に関する個別の問題を学ぶこととなります。最終年次の4年次には、大学における勉強の総決算ともいえる卒業論文の執筆があります。

〈表象文化論教室〉

表象文化論分野は芸術表象研究（イメージ論、視覚文化論、パフォーマンス・アーツ研究、音楽・聴覚文化論、伝統芸能研究、言語芸術論などからなる）と文化表象研究（文化的事象を制度・権力・身体・メディアといった視座から検討する）をふたつの主要学修領域とみなし、理論的アプローチを重視しながら、美術、映画、音楽、演劇、文学から、舞踊、広告、デザイン、ファッション、マンガ、テレビドラマまでのあらゆるジャンルの作

品、作家、運動などを研究対象としてあつかっています。このような学際的・領域横断的な学びの場の特長を活かし、芸術や文化に対する深い知識と理解を通じて市民生活を豊かにすることのできるような学生を育成することを目指しています。

〈日本文化論教室〉

日本文化論の目標は、スタッフと学生が共に学び、古代から現代までの日本語、日本文学の豊かさ、面白さを経験し、現代に生きる力を養うことにあります。授業では正確に文章を読む力をつけ、自発的な発表能力や高い専門性を獲得します。常識や通説にとらわれることなく、先人の業績を虚心に学ぶと同時に、最新の知見を身につけていきます。学ぶことの楽しさ、面白さを誰よりも魅力的に語れる専門のスタッフを擁し、文学・語学の諸領域を幅広くサポートします。日本文学と日本語を切り口に、日本文化の独自性を学べることも本専攻の特色です。芸能・演劇、出版メディア、思想、言語文化などの広い視野に立って日本文学・日本語学研究の沃野に臨みます。

〈中国文化論教室〉

中国文化論の伝統的特徴として「自由な雰囲気」を挙げることができます。教員・学生とも一つの狭い領域に閉じこもることなく、様々な分野を専門的に研究しています。またその活動においては、書林に彷徨うばかりでなく、ユーラシア大陸を縦横無尽に駆けめぐっています。「中国語学」・「中国文学」・「中国文化論」を基本的な領域としながらも、「周辺からの視点」に基づく研究と教育を身につけていくことができます。

学生たちは本教室で中国を中心としたアジアの言語と文化について基礎的な知識を習得できるとともに、上記のような最新の研究にも触れることも可能で、さらに演習での発表や卒業論文を通じて、人間としても大きく成長できます。

〈英語圏文化論教室〉

英語圏文化論では、英米はもちろん、広く英語圏の、文学を中心とする言語文化を教育の対象とします。講義科目では多様な英語圏の言語文化の歴史と現状を教授し、演習科目では学生ひとりひとりが課題に取り組むための批評と思考の力を深めることを目標にしています。文献読解力、コミュニケーション能力、自己表現力が基礎的な力として必須のものなので、実践科目においてはもちろん、すべての科目で学生の言語能力の練磨に努力しています。

〈ドイツ語圏文化論教室〉

一年生のときに学んだドイツ語の知識を基礎として、ドイツ語を読む・書く・聞く・話すという総合的な語学能力を高めていくことを目指します。そしてその語学能力に基づいて、ドイツ語圏の文学、語学、歴史、思想、社会など文化全般にわたる知識を、それぞれの学生がもっている興味に応じて習得していきます。最終的にはそれを、卒業論文という形でまとめ、表現することが求められます。ウィーン大学との交換留学制度もあり、ネイティブスピーカーによる会話や講義の授業も充実しています。授業は少人数制で和気あいあいとした雰囲気。作家を招いての朗読会や夏のゼミ合宿などの企画も盛りだくさんです。

〈フランス語圏文化論教室〉

フランス語とフランス文化は、2千年以上前に、現在のフランスに当たる地域を古代ローマが征服したことに始まります。それ以来、ヨーロッパの交通の要衝であるこの肥沃な地で、ローマ文化と他の諸文化が混雑するなかから新しい独自の文化が生まれ、きわめて高度な発展を遂げました。フランス語圏文化論では学生諸君が、フランス語の深い学修を土台にフランス文化の精髓に触れ、自らの文化を見直す機会を提供するよう努めています。学外からも講師を迎え、ネイティブスピーカーによるフランス語の授業はもちろん、文化全般に関する多彩な授業を展開しています。学部生が院生や教員と親しく交流しながら学べるのもフランス語圏文化論の特色だと考えます。

..(5)獲得すべき学修成果

人文学科の学生は、卒業（学士の学位の授与）までにそれぞれ専攻する分野の学修を通じて、各分野固有の知識・理解及び技術とともに、普遍的に有効性を持つ能力として以下の学修成果を獲得すべきものとします。

① 分野固有の知識・理解及び技術

教室ごとの固有な知識・理解及び技術は以下のとおりです。

〈哲学（哲学・西洋古典学）教室〉

哲学と哲学史ならびに西洋古典学に関する基本的な知識を身につけた上で、主に原典の講読という、いわば書物との対話を通して、言葉で表現された思索と心情を可能な限り正確に理解すべく努めることで、自らの考える力と自立した精神を養い、そこからまた自分自身の思考と心情をやはり言葉によって明晰に表現し伝達する能力を身につけることを目指します。

- a) 古代から中世、近世から近現代に至る哲学史的な知識や、古代ギリシア・ラテン文学史や古典文献学など西洋古典学の基本的な知識を身につける。
- b) 古代ギリシア語からラテン語、ドイツ語、フランス語、英語などで書かれた哲学者や著作家の原典テキストを正確に読解できる言語能力を修得する。
- c) 原典が提示している議論や叙述内容を正確に把握し、論理的な一貫性と整合性をもった日本語の文章に再現できる能力を養う。
- d) 哲学領域においては、原典における個別の議論を哲学的な諸問題に関する哲学史的知見と連動させて検討・考察する力を養う。
- e) 西洋古典学領域においては、作品の読解を通してそこに語られた内容とその表現を精緻に観察・把握し、その文学的伝統をも含めた文献学的理解力を養う。
- f) 上記の哲学的考察や文献学的理解を元に、自らの思索と解釈を加えた自分なりの議論を組み立て、論理的で説得力ある論文を作成する能力を身につける。
- g) 原典講読と内容把握、観察と考察、自立的思索と論述といった一連の学修と研究を通じて、専門的知識を修得するとともに言葉に対する鋭敏さを涵養し思考力を高める。

〈歴史学・考古学教室〉

- a) 歴史学と考古学に関する基本的知識を体系的に修得する。
- b) 歴史学及び考古学について、それぞれに固有の方法論を修得する。
- c) 歴史学における史料と、考古学における発掘調査の方法や物質資料の基本的な取り扱い方を修得する。
- d) 上記 a) において与えられた総合的な知識を基に、歴史学の各分野に関する深い知識を修得する。
- e) 歴史学と考古学の各専門領域における様々な論点についてさらに深い知識を修得する。
- f) 歴史学と考古学の専門書や具体的な研究を取りあげて深く議論し、自らも発信できる能力を修得する。
- g) 修得した総合的・専門的知識と問題解決能力を応用する。

〈表象文化論教室〉

a) 芸術表象領域

芸術とそのさまざまなかたちにかんする知識・理解を深める。

b) 文化表象領域

文化とそのさまざまなかたちにかんする知識・理解を深める。

c) 文化史領域

歴史的観点から文化の諸相の理解を深める。

d) 外国語領域

異文化理解や言語分析に不可欠の外国語を修得する。

e) 総合

修得した専門的知識と問題解決能力を応用する。

〈日本文化論教室〉

a) 正確に文章を読む力をつける。

b) 自分なりの見解をわかりやすく伝える能力を身につける。

c) 各時代の日本文学と日本語についての専門知識を、基礎的事項から最新の知見まで幅広く修得する。

d) 日本文学と日本語の、多角的な研究方法を修得する。

e) 日本文学・日本語を切り口として、日本文化の独自性を学ぶ。

〈中国文化論教室〉

a) 現代中国語の文法を理解し、読み、書き、話す能力を身につける。

b) 文言文（書き言葉）や各時代の古典文を読み、正しく理解する能力を身につける。

c) 各時代の中国文学、各地方の中国文化に関する基礎的知識を広く修得する。

d) テキストを読む際の工具書（各種辞典類）を正しく使用し、それを元に自ら注釈を施す能力を身につける。

e) 演習形式の授業を通し、自身の意見や見解を正しく伝え、適切な資料を元に説得する能力を修得する。

- f) 各ジャンルの研究史を概観し、現在の研究状況を理解する。
- g) 卒業論文作成を通じて、資料収集、思考の整理、論文作成の方法を修得する。
〈英語圏文化論教室〉
- a) 英語のテキストを正確に読解できる言語能力を修得する。
- b) 複数の英語及び日本語のテキストの中および間に存在する隠されたものを読み解く能力を修得する。
- c) 上記 b) において読み解いたものを、説得的かつ論理的に口頭ならびに文章で英語を使用して適切に表現できる能力を修得する。
- d) 上記 b) において読み解いたものについて、近代社会を作り上げている様々なイデオロギーとの関連において解釈し批判する能力を修得する。
- e) 文学作品の読解を通して他者の内面を迫体験し、それと一体化することも距離を置いて批判することもできる精神的可動性を養成する。
- f) 英語で発信される様々な情報を多様なメディアを通して取得し、自らも発信できる能力を修得する。
- g) 英語圏文化の背景にある様々な知識を系統立てて修得する。
〈ドイツ語圏文化論教室〉
- a) ドイツ語圏の文化についての興味を深め、その広い領域における知識を修得する。
- b) ドイツ語のテキストを正確に読解できる言語能力を養う。
- c) 文学作品の読解を通じて、人間の心理や社会とのつながりを洞察し、それを論評できる感受性と論理能力を養う。
- d) ドイツ語についての語学的な知識や歴史的な知識を修得する。
- e) ドイツ語で自らの意見や感情を表現できる筆記能力を養う。
- f) ドイツ語でコミュニケーションできる会話能力を養う。
〈フランス語圏文化論教室〉
- a) フランス語圏の文化についての興味を深め、その広い領域における知識を修得する。
- b) フランス語についての語学的な知識や歴史的な知識を修得する。
- c) フランス語でコミュニケーションできる会話能力を養う。
- d) フランス語のテキストを正確に読解できる言語能力を修得する。
- e) フランス語で自らの意見や感情を表現できる筆記能力を養う。
- f) 文学作品の読解を通じて、人間の心理や社会とのつながりを洞察し、それを論評できる感受性と論理能力を養う。
- ② 当該分野以外においても普遍的に有用性を持つ能力
当該分野以外においても普遍的に有効性を持つ能力は以下のとおりです。
- a) コミュニケーション能力
自らの考えや疑問を相手に分かり易く伝えるとともに、他者との議論を通して協調しながら作業を行うことができる力。

b) 情報活用能力

多様な情報を収集・分析し、効果的かつ正しく活用することができる力。

c) 総合的問題思考力

持っている知識、能力等を総合的に活用しながら、多角的な視点から物事を思考し、解決すべき問題の本質を見極め、それに取り組むことができる力。

d) 論理的思考力

論理的展開を的確に理解したり、自らの考えを論理的に組み立てたりすることができる力。

e) 能動的学修姿勢

自ら解決すべき問題・課題を見つけ、それに取り組む姿勢を備えることができる力。

f) 倫理観、社会的責任の自覚

高い倫理観を持って、社会に対し主体的に関与する責任を自覚している力。

g) 異なる文化・社会への理解

異なる文化的背景を持つ人・国・地域・社会等への理解を深める力。

..(6)卒業要件

人文学科の卒業に必要な単位は 130 単位。内訳は言語科目のうち第二群言語科目 12 単位、およびそれ以外の基礎科目群、教養科目群、基盤科目群 26 単位以上、専門教育科目群からは 74 単位以上。なお専門教育科目の必修の単位数は各分野によって異なるので注意が必要です。(本学在学生在が卒業要件を確認する場合には必ず入学年度発行の履修の手引きを参照してください。)

.2.教育課程の編成及び実施に関する方針 (カリキュラム・ポリシー:CP)

..(1)専門知識における学修成果の確保のための科目編成・教授法・学修方法・学修過程・学修成果の評価の在り方等の基本的考え方

①分野固有の知識・理解及び技術

本学科の DP に基づき、分野横断的な科目を置くと共に、学生の関心に対応できるよう哲学 (哲学・西洋古典学)、歴史学・考古学、表象文化論、日本文化論、中国文化論、英語圏文化論、ドイツ語圏文化論、フランス語圏文化論の 8 つの教室を設けています。

1 年次には、単に専門的な知識に飛びつくのではなく、基礎科目、教養科目、基盤科目を通して、様々な分野の基礎知識を修得するとともに、語学の力をつけるために力を注ぐこととなります。現代社会のさまざまな問題に関心を向け、深く物事を考察する能力はこれらの過程を通して自ずと深まっていきます。また、人文学科の教室選択は 2 年次進級時であることから、それぞれ進級を希望する教室の導入的な科目や「入門」に属する専門科目を一部履修し、1 年間かけてどちらのコースを専門的に学びたいのか、じっくり検討することとなります。

2 年次進級時にそれぞれの専門分野に所属すると、自らの知的な欲求に基づいて主に専

門分野の科目を受講し、それぞれの分野において求められる固有の知的技術を修得していきます。忘れてはならないのは、これらの基礎となる知的技術の修得は4年次に執筆することになる卒業論文への準備段階として行われるべきものだという事です。目前の課題に取り組むことで論文を書きあげるための基礎力をつけながら、同時に自分なりの視点を養うことで自分なりに発見の感覚を持てるよう日々取り組んでいくことが望まれます。そのことが卒業論文執筆をより容易にし、また実り多いものにすると信じます。

人文学科の各分野においては専門的研究テーマを設定して、興味ある専門分野をより深く学ぶために多様な専門科目を用意し、学生が自ら主体的に課題に取り組めるように自由度の高い選択を可能にするカリキュラムを提供しています。これらの多様な専門科目から分野ごとに定められた単位を取得することが卒業の要件になっています。できれば4年次に余裕を持って卒論に取り組めるように単位を取得することを推奨します。

4年次にはいよいよ実際に教員の指導のもとに卒業研究論文に取り組むこととなります。教員1名に対して学生3名程度の少人数制で、一人ひとりの学生に対して非常に細やかな指導が行われます。評価法としては、期末試験だけでなく、講義の理解度を確認するために、小テストや中間試験を行うことがあります。また、情報を収集・分析する能力や、自分の考えをまとめる能力を評価するためにレポート課題を課す、自分の考えを論理的に表現す能力を評価するために授業中にプレゼンテーションを行うなどして、総合的に評価を判断するのが一般的です。

② 当該分野以外においても普遍的に有用性を持つ能力

人文学科の諸分野における学問においては、ひとつの正しい答えが存在するものではなく、むしろ自分で問題を見だし、それを立場の違う人たちに説得的に伝えていくことが求められます。専門教育を通して学ぶ深い精神の蓄積に触れることで、現実の自分とは時間と空間において隔てられているそれらの蓄積の中に、現在の自分自身の存在の根幹につながるような問題・課題を発見、設定し、それに取り組む能動的学修姿勢を身に付けるとともに、これらの問題・課題を研究する過程で論理的思考力を鍛え、情報集中能力を研ぎ澄ませて知識を取捨選択的に取り入れ、それらの知識を踏まえた上で問題解決を探る総合的問題思考力を修得できます。またそれぞれの学問分野における蓄積に対して取捨選択的に対峙していくことによって、過剰な情報にあふれた現代世界のあり方への対応の仕方が身に付くとともに、それぞれの分野で求められている研究を行うことによって、伝統的社会が真理として持っていた意味の枠組みが失われてしまった近代社会において、自らがある程度主体的に再構築すべきものとしての倫理観、社会的責任を自覚することができるようになることをめざしています。

基礎ゼミ、演習などの少人数教育では、特に他者との議論を通して自らの考えを伝え、他者と協調して作業を行うことができるコミュニケーション能力が身に付きます。卒業研究では、これらの能力をすべて発揮して論文を作成します。これが学士課程教育の集大成になります。

..(2)専門教育における学修成果と授業科目の対応表

※別紙参照

..(3)全学共通教育における学修成果の確保のための履修要件・履修指導等の基本的考え方

①基礎ゼミナール

課題発見から、調査、討論、プレゼンテーションまで、少人数制（24名程度）のクラスに分かれて学問の技法を修得するため、1年次前期に必修としている。コミュニケーション能力、総合的問題思考力、能動的学修姿勢の修得ができます。

②言語科目

話す・聞く・読む・書くの4つのスキルを、レベル別クラスで反復して学修することによって実践的な英語を習得するために、1年次前期から2年次後期までの実践英語8単位を必修としています。また、未修言語科目のドイツ語、フランス語、中国語、朝鮮語のいずれかを1年次あるいは2年次に履修することを推奨しています。これらの科目によって言語の基礎的な知識を修得するだけでなく、異なる文化・社会を理解できる能力を身につけます。

③情報教育

パソコン活用能力だけでなく、情報収集、編集、表現、発信など、課題解決型の授業によるITスキルの実践的能力を身につけるため、1年次前期に「情報リテラシー実践I」を必修とし、情報活用能力や情報倫理に関する知識を修得します。

④教養科目群・基盤科目群

幅広い教養を身に着け、総合的な思考力や問題解決能力を育成するとともに、多角的な視野を持つことを目的として、合計14単位を取得することを卒業要件にしています（各分野で推奨している科目については、履修の手引きを参照してください）。

..(4)年次進行要件

2年次終了判定を以下の基準で行います。

次の①、②の要件を満たしていることが必要です。ただし、2年次を経ずに3年次に進級することはできません。

①24ヶ月以上在学していること。

②言語科目 12単位を含む44単位以上を修得していること。

	基礎	専門	卒業研究(卒業論文は必修)
哲学教室	古代中世哲学Ⅰ・Ⅱ、近世哲学Ⅰ・Ⅱ 哲学基礎演習(英米・独仏)Ⅰ・Ⅱ 西洋古典学概論Ⅰ・Ⅱ、ギリシャ語Ⅱ、ラテン語Ⅱ など	哲学史演習、哲学演習、倫理学演習 哲学特殊講義、倫理学特殊講義 西洋古典学演習など	卒業論文 哲学討論
歴史学・考古学教室	歴史学/考古学概論 歴史学/考古学方法論 古文書学、日本文化史、日本/外国史概論など	日本史/東洋史/西洋史/考古学演習 特殊講義、実習、歴史調査法など	卒業論文 卒業論文指導
表象文化論教室	表象文化論入門、表象文化論基礎理論 外国語文献講読	表象文化史A・B、空間表象論 芸術表象論、文化表象論、表象文化論演習 表象文化論特殊講義	卒業論文 卒業研究
日本文化論教室	日本語文化概論Ⅰ・Ⅱ 日本古典 日本文学講義Ⅰ・Ⅱなど	日本文学史、日本文学演習Ⅰ・Ⅱ 日本文化特殊講義 日本語学演習など	卒業論文
中国文化論教室	中国言語文化概論、漢文学 中国古典Ⅰ・Ⅱ、中国語概説Ⅰ・Ⅱ 中国文学概論Ⅰ・Ⅱ、中国語会話Ⅰ・Ⅱなど	中国文学史、中国思想史Ⅰ・Ⅱ 中国語法、中国語史 中国文化演習など	卒業論文
英語圏文化論教室	上級英語、英語圏文学史、英語圏文化論A・B 英語学概論、英作文Ⅰ、英会話Ⅰ 英語圏文化史A・B	英作文Ⅱ、英語表現論、英会話Ⅱ、英語史 英語圏文化論A・B、英語圏文学論A・B 英語圏文化演習、英語圏文学演習など	卒業論文
ドイツ語圏文化論教室	ドイツ語学概論、ドイツ語史 ドイツ語作文Ⅰ・Ⅱ、ドイツ語会話Ⅰ・Ⅱ ドイツ語圏文化史	ドイツ語圏文学演習、ドイツ語圏文学論 ドイツ語圏文化論、ドイツ語圏文化演習 ドイツ語学特殊講義、上級ドイツ語など	卒業論文
フランス語圏文化論教室	フランス語会話Ⅰ、フランス語作文Ⅰ フランス語圏文化史、フランス語圏文化論 フランス語圏文学史、フランス語学論など	フランス語会話Ⅱ、フランス語作文Ⅱ フランス語圏文化演習 フランス語圏文学論、フランス語圏文学演習など	卒業論文

専門分野に必要な基礎的な科目

専門分野に対応した発展的な科目

卒業論文の研究のための科目

学生が習得すべき能力	人文学に関する各分野固有の知識を修得し、それらを問題解決に活用できる能力	現代社会に対する批判的思考力、及び異なる文化・社会に対する理解力	論理的に思考し、倫理観・社会的責任を自覚しながらコミュニケーションすることのできる能力
------------	--------------------------------------	----------------------------------	---